

豊橋の豊かさを未来へ継承するために

No. 5

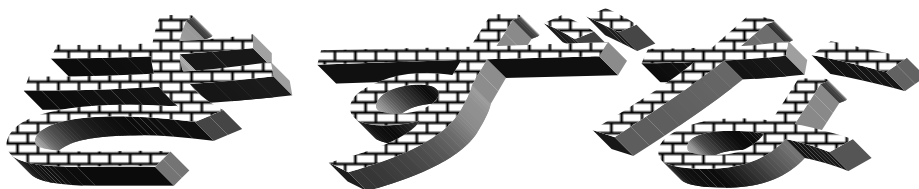
発行：豊田一雄事務所

豊橋市多米西町三丁目2-10

Tel 64-6147 Fax 64-1401

Email g-toyoda@tees.jp

http://toyo.pbeins.net



6月議会開催

6月定例議会が6月9日から10日間にわたり開催され、予算案2件、条例案21件、単行案10件などが議決されました。条例案の主なものは個人市民税における寄付金税制について、現行の所得控除方式を税額控除方式に改めるなどの市税条例の一部を改正する条例、地方公共団体に対する寄付金税制の見直しに伴い、寄付者から收受した寄付金を適正に管理する手法を規定するふるさと寄付金条例などです。指定管理者の管理する17の施設の利用料金を指定管理者の収入とする条例も議決されました。単行案では西部地域福祉センター、大清水小学校北校舎、中部中学校北校舎の工事請負契約締結についてなどが承認されました。

早川市長が4選出馬を表明

一般質問は18人の議員により3日間にわたり行われました。特に注目された早川市長の4選出馬問題については、まちフォーラムの芳賀裕崇議員と清志会の原基修議員が質しました。

二日目の午前に登壇した芳賀議員は早川市長に対して、引き続き市政を担当し平成23年度からの豊橋市総合計画(10ヵ年計画)策定に携わる考えの有無を聞きました。その質問を聞く間、市長はスーツのボタンを留め背筋を伸ばし、次に自分が立ちテレビカメラに狙われるであろうことに備えているようでした。答弁は「今、日本は地方分権から地方主権へと移行している。かつては国と地方は上下関係にあったが、今では対等の関係になった。地方主権の時代にふさわしい豊橋にしなければ

今年11月に予定される豊橋市長選挙に出るのか出ないのか。その問いに対して常にはぐらかしてきた現職の早川勝氏が、やっと出馬の意思を明らかにしました。ここまで結論を引き伸ばしてきた原因は、市長就任直後の平成8年12月議会での自らの発言にあったであろうことは想像に難くありません。当事、清志会の石田勝朗議員の質問に対して、「あまり長く首長の座におりますと、どうしても発想が枯渇するさらいがありますし、政策が単調になります。また、いろんな分野での激みも生ずるとい

新しい時代に新しい市長

人口減
りませ
ん
です。

「た、いろんな分野での激みも生ずるといった弊害が表れるのはなかなか避け難いのではないかと考えているところです。従いまして、一般論としてですが、市長の任期は連続して3期まで、これが限度ではないか」と答えているからです。

今年6月議会では早川市長は、原基修議員の多選の弊害に関する質問に対して「3期務めてきて、自分は不祥事の心配はないと自信を持ちました」と答えています。この過信こそが、既に多選の弊害の発端と言えらるのではないのでしょうか。むしろ、弊害が懸念されるのでその対策を講じる、という

のが健全な考え方だと思います。今年の選挙で選ばれる市長は、平成32年を目標年次とする豊橋市第5次総合計画の策定をすることになります。実際に目標年次まで市長を務めるかどうかは選挙の結果次第でわかりませんが、少なくともそこまで務める意志を持つ人に作って欲しいものです。早川市長にその意思はなく、今度最後の4年にしたいと言っています。

これまで早川市長は東三河の将来について、そのあるべき姿を明確に示すことはあ

少、地球温暖化、食料危機、地方分権の進展など様々な環境変動の中で、どのように元氣な豊橋であり続けるのかも示していません。この12年で豊橋を取り巻く環境は大きく変化し、今後も大きな変化が予想されます。21世紀の豊橋を市民とともに考え新しいビジョンを作り、確実に実現して

る市長が必要だと考えます。皆さんはどのようにお考えでしょうか？(豊田)



らない。昨今、中央では二大政党化が著しいが、政治分野でも地方主権が訪れてもいい。自分は市民党として挑戦し、最後の4年の政治活動を実現させてもらえればうれしい」という趣旨のものでした。かつては市長の任期は3期限りにすべきであると宣言していましたが、昨年末辺りから「気持はニュートラル」とニュアンスが変わり4選出馬の可能性を匂わせていたものの、議員の多くは今回も答えないのではないかと予想していたようです。しかし、市長の答弁はこの日に備えしっかり準備してきたものであることは明らかで、意表をつかれた議場はざわめきました。

この日の午後には、原議員が多選の弊害について質問に立ちました。「戦後60年の豊橋市長選挙の歴史を調べたところ、ほとんどの人が最初に50代で市長となり2~3期で勇退している。4期に入った方は何らかのトラブルに巻き込まれて、途中で引退する。前市長もそう

った。神奈川県では知事の大選を禁止し、埼玉県や 11 の市町村では首長の大選自粛条例を作っている。これは「多選のもたらす弊害があちこちに出ているということを示すものだ」と問題意識をぶつけました。2 回目の質問では、幹部の問題を示しました。現在の部長の多くは、早川市長が誕生した当時まだ課長とか課長補佐あるいは係長だった人達であり、4 期目となれば早川市長に対して本音でものを言うのが難しくなるのではないかと指摘です。さらに、来年度からは第 5 次総合計画の策定に向けた作業が始まることに触れ、新たな計画はその実践を全うする可能性を持つ若い世代に任せるべきではないかとも迫りました。

この質問に対して早川市長は、自分は多選による不祥事は起こさないと自信を示しました。総合計画に関して

◆◆◆◆お知らせ

消防団第 2 方面隊が市操法大会で優勝

6 月 8 日、高師緑地公園で豊橋市消防団小型ポンプ操法・放水競技大会が行われ、多米分団と岩田分団が代表出場した第 2 方面隊が総合優勝しました。市内各校区には消防団の分団があり、合計 52 の分団は 8 つの方面隊に所属しています。この大会ではそれぞれの方面隊を代表する分団が集まり、その技を競い合いました。

小型ポンプ操法は、設置された防火水槽から給水し火災現場を意識した火点(かてん)と呼ばれる的にめがけて放水し、撤収するまでの一連の手順を競うもので、第 2 方面隊からは岩田分団が出場し、みごと優勝を果たしました。さらに実際の火災現場の動きに近い放水競技は、耐火服を着るところから始まり、ホースを伸展し 4 箇所の火点と呼ばれる的に落とすまでの時間を競うもので、多米分団が出場しました。惜しくも準優勝。両分団の頑張り第 2 方面隊は総合優勝を勝ち取りました。



(高師緑地公園で多米分団の皆さんとの記念写真)

この大会は消防団の火災への対応力を磨くために行うもので、両分団のメンバーは、この日のために 3 週間にわたり毎朝厳しい訓練を積んできました。多米分団では朝倉啓成分団長を中心に、17 人の団員が地域住民の安全を守るために、火災などの災害に備えてくれています。消防団では団員を募集しています。興味のある方は、消

は、そもそも市長の任期は 4 年であり、総合計画の 10 年というスパンとはマッチしないと切り捨てました。また年齢についても、実年齢よりもどれだけの情熱を持っているかが重要だと主張。さらに、もし次の選挙で当選したら、市長は 4 期、市議は 6 期までという条例を出したいと答えるなど、あくまでも強気の姿勢を示したのです。

今後、11 月 9 日の市長選に向けて、豊橋市が抱える様々な課題について、市民を巻き込んだ活発な議論が展開されることが期待されます。

☆☆☆☆☆☆

5 月 15 日には臨時議会が開催され、議長に豊橋自由民主党市議団の大沢初男氏が、副議長に公明党豊橋市議団の伊藤秀昭氏が選任されました。

◆◆◆◆消防団 多米分団の活躍

防団関係者あるいは豊田一雄宛にご連絡下さい。

清志会ニュース

○清志会が第一会派に

会派構成の移動がありました。今年 4 月、無所属だった 2 名の議員が豊橋自民党市議団に入団、5 月には鈴木道夫議員が豊橋自民党市議団を退団し清志会に入会しました。この結果、清志会は 13 名となり第一会派となりました。以下、豊橋自民党市議団 12 名、公明党 6 名、まちフォーラム 4 名、共産党 3 名、諸派 2 名となっています。

○6 月議会の一般質問

清志会からは以下の 4 名が一般質問を行いました。

・久保田 正義議員

1. 中国・四川大地震の想像を絶する被害状況から学ぶ教訓・対応について

2. 国民健康保険税収納対策について

3. 青少年の抱える現状と課題、及びその対策について

・原 基修議員

1. 豊橋市政 12 年間に総括した市長の所見を伺う。

・岩瀬 篤議員

1. 東南アジア地域における各港湾との連携による物流戦略の方向性について

2. 吉田城の復元や整備について、今まで何度となく質問を行っているが方向付けされていない。どのような認識を持っているか伺う

・根本 幸典議員

1. 本市の減免制度について

お知らせ

※出前市政懇談会：3 人以上の方が集まっていれば、都合のつく限り市内のどこにでも出かけます。おもて面上段の連絡先へご一報ください。